

まえてつ通信 4th

NO. 031 2024(R6).12.20 (金)

力を入れている「お魚村構想」 年またぎの案件

ネット記事「40代男性が選ぶ西日本で魚がおいしいと思う府県ランキング」で
長崎県が堂々の1位でした。(2 愛媛 3 山口 4 広島 5 鳥取 6 大分 7 兵庫 8 高知 9 鹿児島・福岡)

故伊藤市長が現職時代に「お魚村構想」を市の事業として検討していました。(旭町界隈で)
今は長崎大学水産学部発の漁業を中心にした持続可能な社会・地域創造を目指す「ながさき BLUE
エコノミー」プロジェクトで「産地マルシェ」という位置づけで検討がなされています。

産地マルシェ設置の狙いは、一つは観光客だけでなく、**地元の人たちの消費行動を促進**していくこと。もう一つは**生産者・飲食店・観光施設が協業**することで、**地域全体の経済活動を盛り上げて**いくこと。

私も正にそのようなことを考え、4年前に県庁前の「旭大橋下の県の遊休地にお魚村を設置する」勉強会を立ち上げ検討するも、コロナ禍もあり頓挫していました。しかし2年前の私の個人質問で再度庁内でも動きだし、来年度には他の活用(例えば駐車場)を含めて公募になりそうです。

現在要望しているのは、「他の様々な事業と一緒にたに公募をかけるのはおかしい。県(長崎市)として**水産物を買える・味わえる=食の賑わい拠点創出が必要なのか**、まずはそこを「**政策決定**」してほしい。そのうえでそのような拠点を「**民間投資で実現させる**」ならば、県や市が所有する「**まとまった土地を減免し貸付してほしい**」という内容です。

県で言えば企画部、観光部、水産部、土木部で一緒になって検討してもらっています。また近く知事とも意見交換、そして長崎市にも投げかけます。欲を言えば「屋台村併設」も。

年をまたいで取り組みます。ご期待ください。

※以下は現在イメージしている場所ですが様々な制約・課題があります。一個一個解決に努力します。

